

2020年度 第2四半期 決算説明会

- 1 2020年度 第2四半期（上半期）決算
- 2 2020年度 業績予想
- 3 2025長期ビジョン第2期 方針等
- 4 参考資料
連結経営指標等、セグメント別事業内容、TOPICS

2020年11月19日
タツタ電線株式会社

**本資料における将来の予測等に関する各記述は、
当社が現時点で入手可能な情報に基づく判断や仮定によるものであり、
リスク及び不確実性が含まれております。
したがって、実際の業績等は、予想数値とは異なる結果となる可能性があります。**

**本資料に関するお問い合わせ先
タツタ電線株式会社
経営企画部
TEL:06-6721-3011 FAX:06-6726-2300
<http://www.tatsuta.co.jp/>**

1. 2020年度第2四半期（上半期）決算

- 1. 上半期決算および年度予想（要点）
- 2. 2020年度上半期主要条件
- 3. （対前年同期）2020年度上半期決算
- 4. （対前年同期）上半期売上高、営業利益増減要因
- 5. 貸借対照表、キャッシュフロー計算書

2. 2020年度業績予想

- 1. 2020年度業績予想 主要条件
- 2. 2020年度業績予想（対2019実績）
- 3. 2020年度業績予想
売上高、営業利益増減要因（対2019実績）
- 4. 2020年度業績予想（対前回業績予想）
- 5. 2020年度業績予想
上半期売上高、営業利益増減要因（対前回業績予想）
- 6. 2020年度業績予想
年度売上高、営業利益増減要因（対前回業績予想）
- 7. 2020年度業績予想 資本的支出、減価償却費
- 8. 配当
- 9. 2020年度下期 運営方針

3. 2025長期ビジョン第2期方針等

- 1. 2025長期ビジョン（2017.5公表）の概要
- 2. 基本方針
- 3. 主要事業課題

参考資料

- (1) 連結経営指標等
- (2) セグメント別事業内容
- (3) TOPICS
 - ① 5G対応製品群
 - ② DXへの取り組み
 - ③ 投融資の取り組み
 - ④ ESG・SDGsへの取り組み

1. 2020年度第2四半期（上半期）決算

- 1. 上半期決算および年度予想（要点）**
- 2. 2020年度上半期主要条件**
- 3. （対前年同期）2020年度上半期決算**
- 4. （対前年同期）上半期売上高、営業利益増減要因**
- 5. 貸借対照表、キャッシュフロー計算書**

1-1. 上半期決算および年度予想（要点）

2020年度 第2四半期（上半期）決算

（上半期決算）

売上高 : 27,386百万円（前年同期比 ▲6.0%）
営業利益 : 2,011百万円（前年同期比 ▲1.8%）

電線・ケーブル事業

売上高 : 16,399百万円（前年同期比 ▲9.6%）
営業利益 : 266百万円（前年同期比 +47.5%）

- ◆ インフラ向け電線は新型コロナウイルス影響下での国内景気低迷により販売量が減少したものの、販売構成および銅価変動影響の改善等により、減収増益。
- ◆ 機器用電線においても同影響のもと販売低迷が継続し、減収減益。

電子材料事業

売上高 : 10,130百万円（前年同期比 +0.8%）
営業利益 : 2,128百万円（前年同期比 ▲0.3%）

- ◆ 主力製品である機能性フィルムは、携帯端末向け需要が厳しい状況にあるなか、前年同期を若干上回る販売量を確保し、若干の増収。営業利益は開発費用の増等はあったもののコストダウンによる吸収に努めた結果、概ね前年同期並み。

その他事業

売上高 : 873百万円（前年同期比 ▲9.4%）
営業利益 : ▲43百万円（前年同期 68百万円の利益）

- ◆ センサー、医療機器部材、環境分析の各事業は、新型コロナウイルス影響による需要減により、減収減益。

（年度予想）

売上高 : 55,800百万円（前期比 ▲4.1%、対前回 +7.9%）
営業利益 : 3,200百万円（前期比 ▲15.4%、対前回 +6.7%）

- ◆ 2020年5月13日に公表した通期連結業績予想を修正（前回業績予想に対し増収増益）。フィルム、電線販売の若干の改善等を見込む。

1-2. 2020年度上半期主要条件

2020年度 第2四半期（上半期）決算

項目	2019年度 上期	2020年度 上期	備考
為替（円／USD）	109	107	
電気銅建値 （千円／t）	692	675	電線・ケーブル製品売上高、原料代の両方に 影響（収支には原則中立）
電線販売量伸び率 ＊対前年同期比	+5.2%	▲4.9%	国内インフラ向け
機器用電線売上 ＊電線・ケーブルセグメント内数	28億円	24億円	
機能性フィルム販売量伸び率 ＊対前年同期比	▲10.8%	+3.2%	大半円建て販売 （短期売上・収益への影響軽微）

1-3. (対前年同期) 2020年度上半期決算

2020年度 第2四半期（上半期）決算

(単位：百万円)

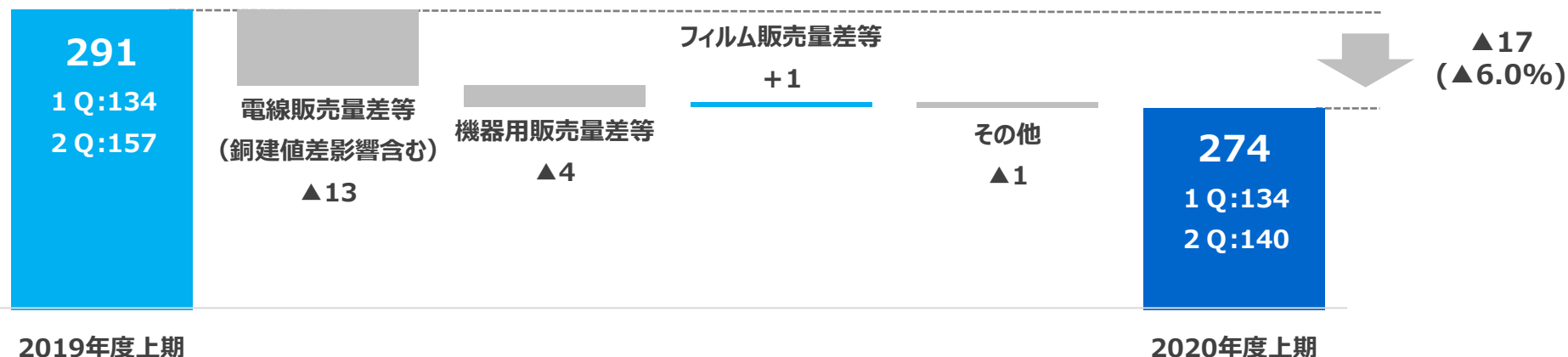
	2019年度上期	2020年度上期	前年同期差異	備考
電線・ケーブル	18,131	16,399	▲1,732	
電子材料	10,046	10,130	+84	
その他	949	857	▲92	
売上高	29,127	27,386	▲1,740	
電線・ケーブル	180	266	+85	
電子材料	2,134	2,128	▲6	
その他	▲265	▲382	▲116	
営業利益	2,048	2,011	▲37	
(営業利益率)	(7.0%)	(7.3%)	(+0.3%)	
経常利益	2,067	2,032	▲35	
特別損益	59	▲8	▲66	前上半期：災害保険収入他
当期純利益	1,429	1,460	+31	
一株当たり純利益（円）	23.13	23.64	+0.51	
一株当たり配当（円）	9.00	9.00	—	

1-4. (対前年同期) 上半期売上高、営業利益増減要因

2020年度 第2四半期 (上半期) 決算

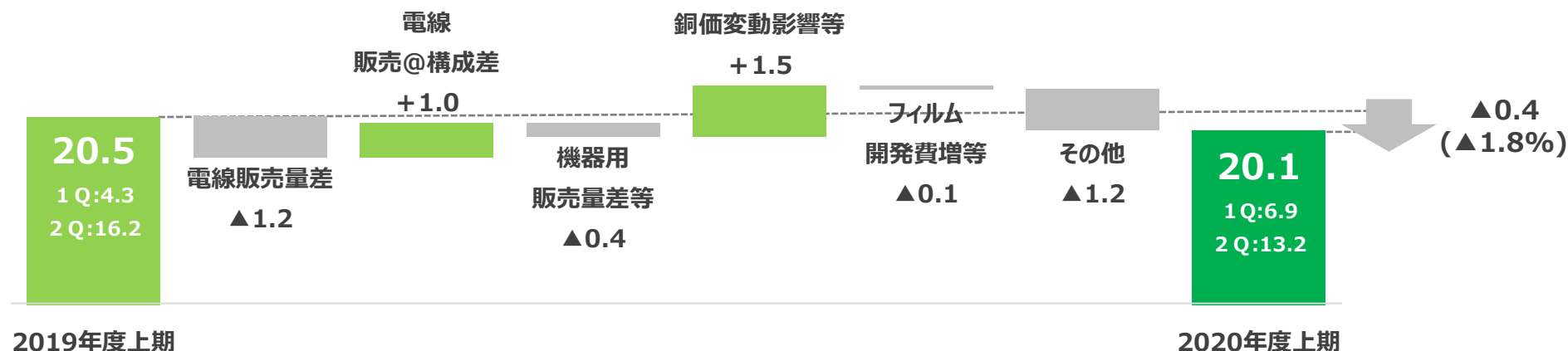
売上高

(単位：億円)



営業利益

(単位：億円)



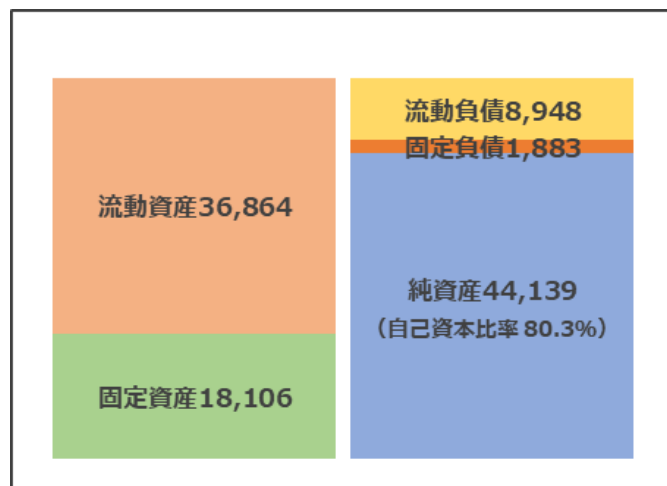
1-5. 貸借対照表、キャッシュフロー計算書

2020年度 第2四半期（上半期）決算

【貸借対照表】

（単位：百万円）

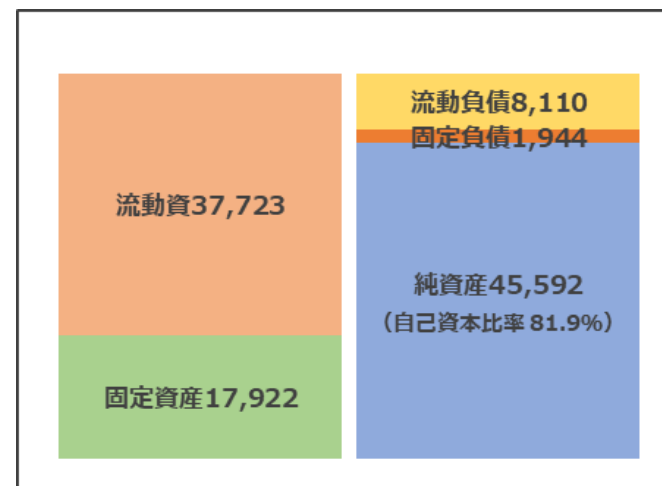
2020年3月末 総資産54,970



+ 675



2020年9月末 総資産55,646



【キャッシュフロー計算書】

（単位：百万円）

	2020年度上期	備考
営業CF	2,444	
投資CF	▲1,991	
設備投資	▲838	
その他	▲1,153	短期貸付金増加等
財務CF	▲547	
CF合計	▲93	
(減価償却)	(825)	

2. 2020年度業績予想

- 1. 2020年度業績予想 主要条件**
- 2. 2020年度業績予想（対2019実績）**
- 3. 2020年度業績予想**
 - 売上高、営業利益増減要因（対2019実績）**
- 4. 2020年度業績予想（対前回業績予想）**
- 5. 2020年度業績予想**
 - 上半期売上高、営業利益増減要因（対前回業績予想）**
- 6. 2020年度業績予想**
 - 年度売上高、営業利益増減要因（対前回業績予想）**
- 7. 2020年度業績予想 資本の支出、減価償却費**
- 8. 配当**
- 9. 2020年度下期 運営方針**

2-1. 2020年度業績予想 主要条件

2020年度 業績予想

項目	2019年度 実績			2020年度 前回業績予想			2020年度 今回業績予想			備考
	上期	下期	年度	上期 予想	下期 予想	年度 予想	上期 実績	下期 予想	年度 予想	
為替 (円/USD)	109	109	109	105	105	105	107	105	106	
電気銅建値 (千円/t)	692	671	682	580	580	580	675	750	712	
電線 販売量伸び率 * 対前年同期比	+5.2%	+2.7%	+3.9%	+0.4%	▲9.1%	▲4.5%	▲4.9%	▲1.3%	▲3.0%	
機器用电線売上 * 電線・ケーブル セグメント内数	28億円	30億円	58億円	25億円	30億円	55億円	24億円	33億円	57億円	
機能性フィルム 販売量伸び率 * 対前年同期比	▲10.8%	+16.5%	+0.3%	▲6.8%	▲17.5%	▲11.8%	+3.2%	▲16.5%	▲6.1%	

* 2020年度予想：新型コロナウイルス問題による販売面への影響が本年度中は続くものと想定

2-2. 2020年度業績予想 (対2019実績)

2020年度 業績予想

(単位：百万円)

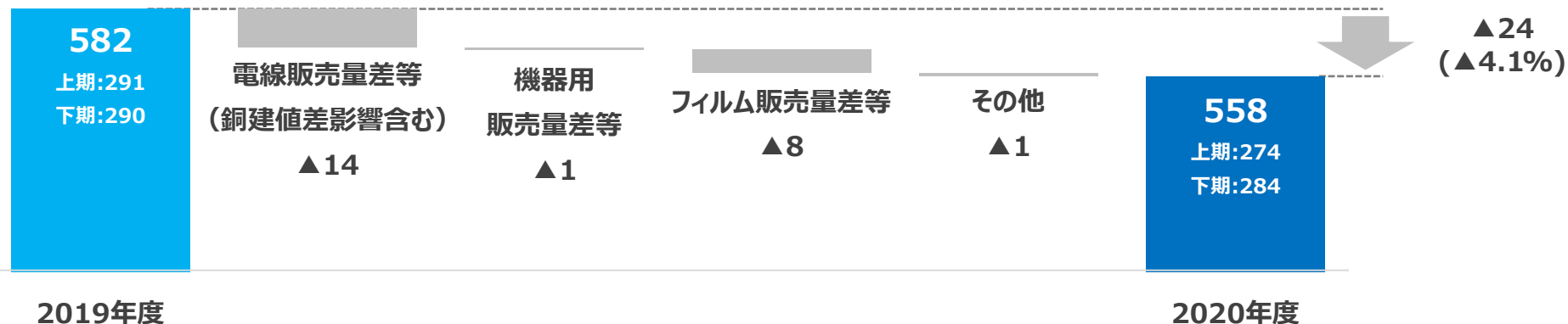
		2019年度実績			2020年度予想			年度差異
		上期	下期	年度	上期実績	下期予想	年度予想	
	電線・ケーブル	18,131	18,864	36,996	16,399	19,200	35,600	▲1,396
	電子材料	10,046	9,083	19,129	10,130	8,169	18,300	▲829
	その他	949	1,096	2,045	857	1,042	1,900	▲146
売上高		29,127	29,043	58,171	27,386	28,413	55,800	▲2,371
	電線・ケーブル	180	343	523	266	533	800	+276
	電子材料	2,134	1,628	3,762	2,128	1,071	3,200	▲562
	その他	▲265	▲239	▲505	▲382	▲416	▲800	▲294
営業利益		2,048	1,732	3,781	2,011	1,188	3,200	▲581
(営業利益率)		(7.0%)	(6.0%)	(6.5%)	(7.3%)	(4.2%)	(5.7%)	(▲0.8%)
(ROA)				(7.3%)				
経常利益		2,067	1,850	3,917	2,032	1,167	3,200	▲717
特別損益		59	43	102	▲8	—	▲8	▲110
(ROE)				(6.3%)				
当期純利益		1,429	1,311	2,740	1,460	839	2,300	▲440

2-3. 2020年度業績予想 売上高、営業利益増減要因（対2019実績）

2020年度 業績予想

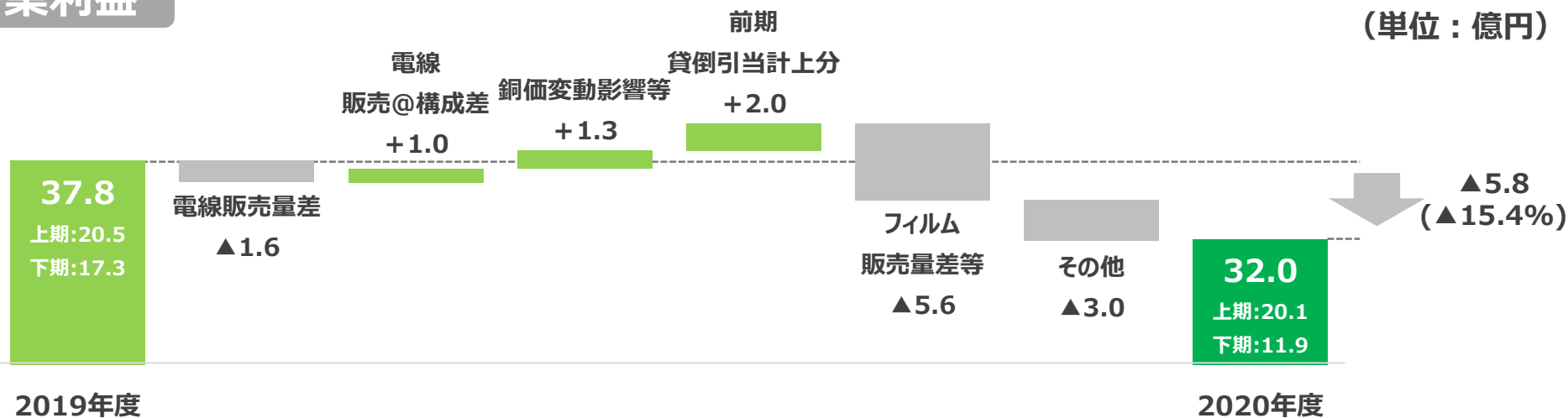
売上高

（単位：億円）



営業利益

（単位：億円）



2-4. 2020年度業績予想 (対前回業績予想)

2020年度 業績予想

(単位：百万円)

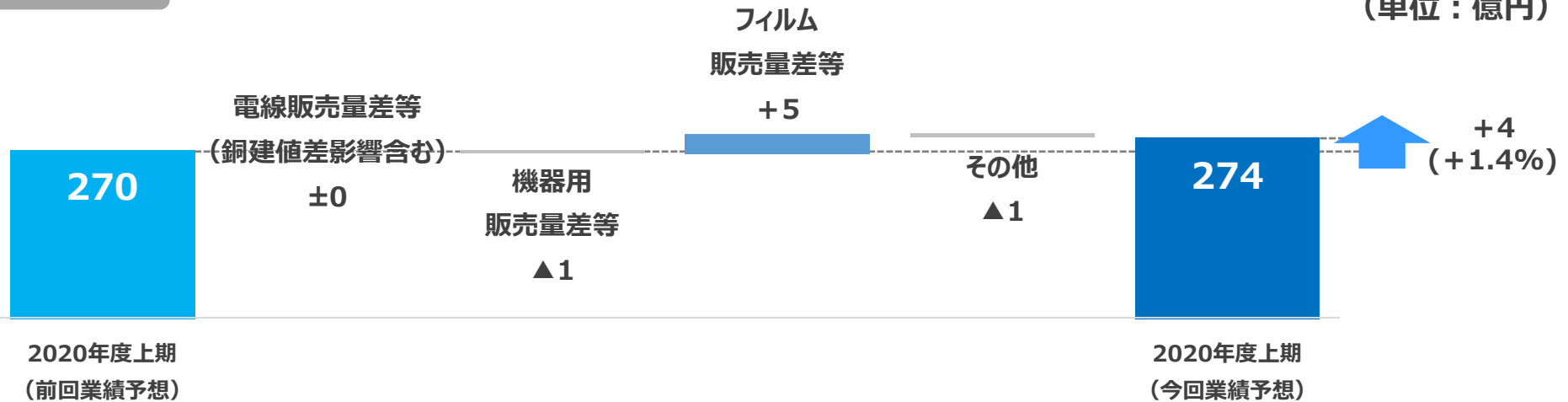
		前回業績予想			今回業績予想			年度差異
		上期予想	下期予想	年度予想	上期実績	下期予想	年度予想	
	電線・ケーブル	16,500	15,500	32,000	16,399	19,200	35,600	+3,600
	電子材料	9,600	8,100	17,700	10,130	8,169	18,300	+600
	その他	900	1,100	2,000	857	1,042	1,900	▲100
売上高		27,000	24,700	51,700	27,386	28,413	55,800	+4,100
	電線・ケーブル	250	450	700	266	533	800	+100
	電子材料	2,000	1,000	3,000	2,128	1,071	3,200	+200
	その他	▲400	▲300	▲700	▲382	▲416	▲800	▲100
営業利益		1,850	1,150	3,000	2,011	1,188	3,200	+200
(営業利益率)		(6.9%)	(4.7%)	(5.8%)	(7.3%)	(4.2%)	(5.7%)	(▲0.1%)
経常利益		1,850	1,150	3,000	2,032	1,167	3,200	+200
特別損益		—	—	—	▲8	—	▲8	▲8
当期純利益		1,300	800	2,100	1,460	839	2,300	+200

2-5. 2020年度業績予想 上半期売上高、営業利益増減要因（対前回業績予想）

2020年度 業績予想

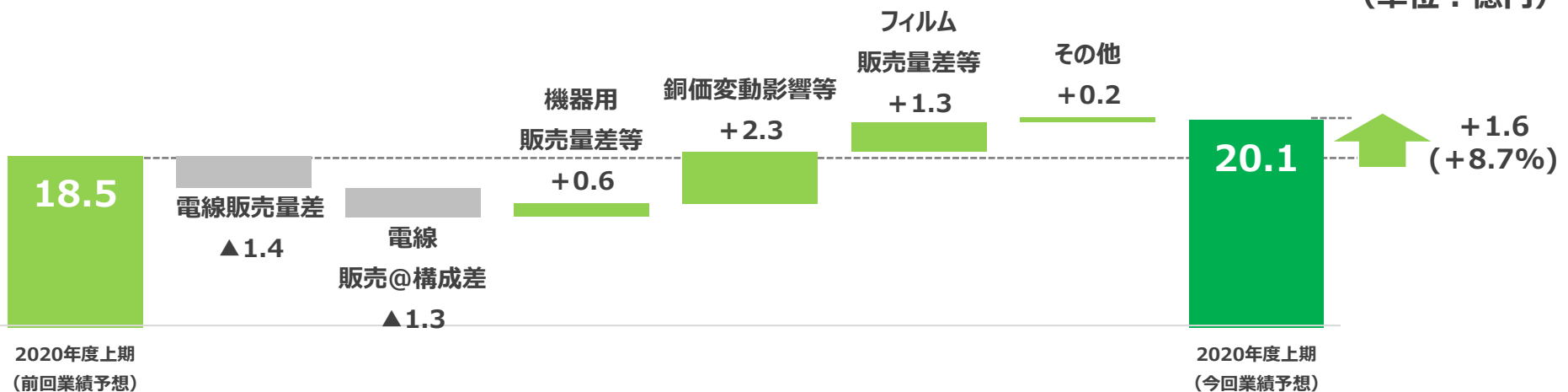
売上高

（単位：億円）



営業利益

（単位：億円）



2-6. 2020年度業績予想 年度売上高、営業利益増減要因（対前回業績予想）

2020年度 業績予想

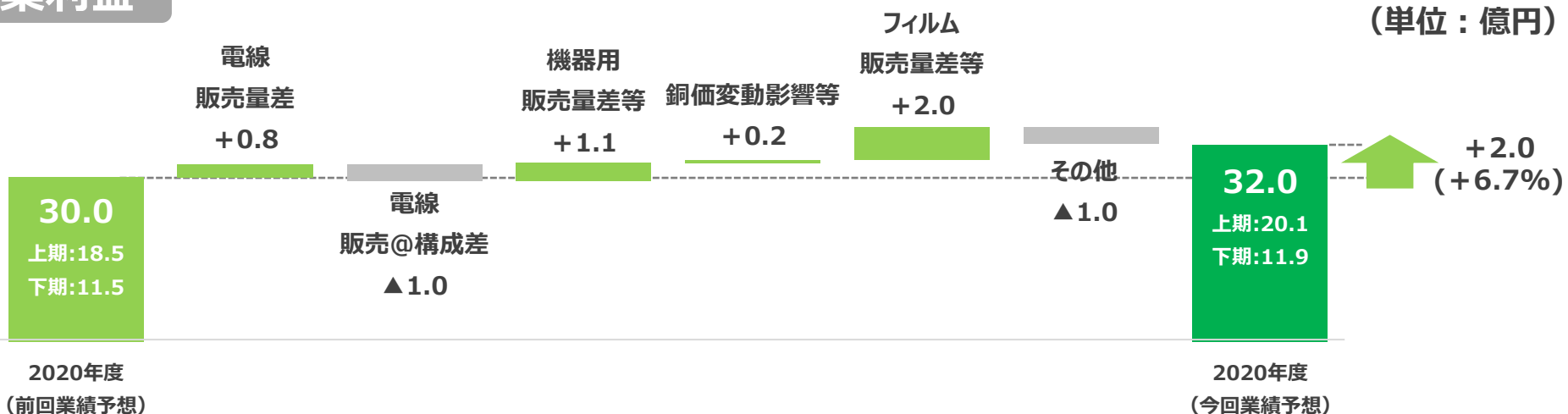
売上高

（単位：億円）



営業利益

（単位：億円）



(単位：百万円)

	2019年度実績	2020年度予想
資本的支出	2,128	注) 3,101
減価償却費	1,836	1,917

注) 留保枠支出（案件を特定せず中長期BS計画上枠設定したもの）含まず

(2020年度 主要投資項目)

- 電線事業基盤強化・能力増強等 : 7億円
- 機能性フィルム市場対応・開発投資等 : 7億円
- センサー&メディカル製品開発投資等 : 4億円
- 電子材料事業各拠点環境整備対応 : 2億円
- 安全衛生関連環境整備対応 : 2億円

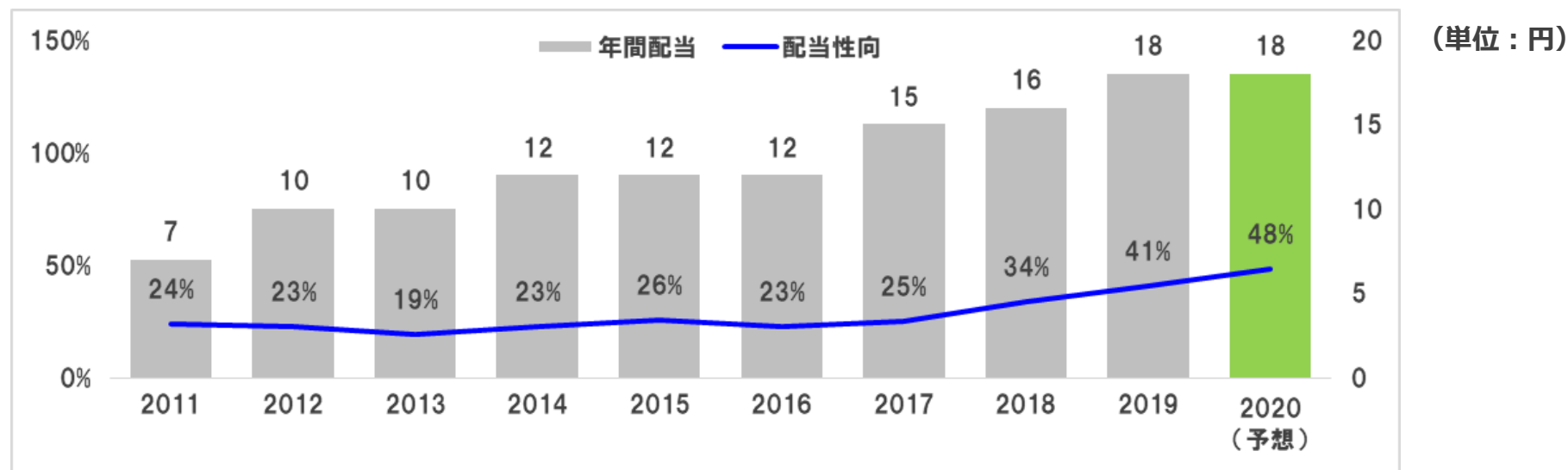
* 資本的支出の外数として電子材料周辺分野等投資枠
(2020年度対象9億円)を設定。

【2019年度年間配当金】

○ 18円／株・年間（中間9円、期末9円）→ 対前年+2円増配（配当性向41%）

【2020年度年間配当金予想】

○ 18円／株・年間（中間9円、期末9円）→ 対前年同額予想（配当性向48%）



当社配当に関わる基本方針（参考）

配当性向30%を目安としつつ、安定的な配当を継続することを基本とし、各年度の剰余金の配当等の決定は、業績の動向、設備投資の見通し等を総合的に勘案したうえで決定することを基本方針とする。

・長期化が想定される新型コロナウイルス感染症への対策を徹底し従業員・社会の安全を確保するとともに、お客様への供給責任を果たす。

- ・ポストコロナをにらんだ各種対応（リモート営業・DX化・働き方改革）の検討推進
- ・市場回復期を見据えた製品開発・改良の推進
- ・スタートアップを含むM&A投資等の積極的掘り起こしと実行
- ・安全推進体制の一層のレベルアップ

電線・ケーブルセグメント事業

通信電線事業：顧客要求対応力を高めタツタブランド品を拡販、汎用品の収支改善実行

機器用電線事業（国内）：顧客ニーズに沿った製品・サービスの提供、成長期待市場への展開、営業協業の推進

機器用電線事業（海外）：販売チャネルの多層化、製品の対象市場の拡大

電子材料セグメント事業

機能性フィルム事業：シェア堅持と、収益性確保、周辺材料への展開

ファインワイヤ事業：メモリ向け銀線、車載向け銅線の拡販

機能性ペースト事業：メタライズペーストの拡販および半導体パッケージ向けペーストの事業化の推進

その他セグメント事業

センサー事業：＜システム＞成長分野への販売拡大 ＜フォト＞眼科OCT拡販とOCT外需要の開拓

環境分析事業：分析サービス拡充、測定サンプリングおよび分析の競争力（品質・コスト・納期）強化

医療機器部材事業：新規製品群の販売開始、事業化推進

3. 2025長期ビジョン第2期方針等

- 1. 2025長期ビジョン（2017.5公表）の概要**
- 2. 基本方針**
- 3. 主要事業課題**

3-1. 2025長期ビジョン（2017.5公表）の概要

- 【定性的目標】 電線・電子材料関連のフロンティアを開拓し、
ニッチトップのサプライヤーとなり、独創的な先端部品・素材を供給する。
- 【定量的目標】 高い収益率を維持しつつ、
現状の1桁上の規模（売上高1,000億円、営業利益100億円）を併せ持つ。

【事業戦略】

成長追求	機能性ペースト、医療機器部材
中長期育成	機器用電線（海外）
利益追求	通信電線、機器用電線（国内） 機能性フィルム、ファインワイヤ、センサー、環境分析

【2025に向けたロードマップ】

期 間	第1期 (2017-2019)	第2期 (2020-2022)	第3期 (2023-2025)
課題	基盤整備期間	新製品量産化期間	新製品増産収益貢献期間
投融資枠	3年間 210億円 (うち留保枠120億円)	3年間 240億円 (うち留保枠120億円)	3年間 280億円 (うち留保枠120億円)
目標 営業利益	19年度 50億円	22年度 70億円	25年度 100億円

注）留保枠：長期ビジョンで設定したM&Aを含む戦略投資のための投資余裕枠。BSの健全性を損なわない範囲のものとして、
2017～2025年度（9年間）を対象期間に設定。

3-2. 基本方針

・新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底し従業員・社会の安全を確保するとともに、お客様への供給責任を果たす。

・利益追求事業

→ 販売量の維持・拡大、品種構成の改善、生産効率化による収益最大化を図る。

・成長追求事業

→ 長期ビジョン第3期における新製品の増産・収益貢献に備え、第1期における新製品開発の遅れをキャッチアップし、新製品の上市・量産化を実現する。

・中長期育成事業

→ 本格的に販売を立ち上げ、第3期における事業拡大に備える。

2020～2022年度の中期経営計画につきましては、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大と長期化の見込みを受けて当社主力製品需要前提が大きく変動しつつあり、中長期的な販売環境等を合理的に予想できないことから、発表を延期しております。

しかしながら、当社の提供する製品・サービスは、IoT、AI、5G通信の進展、医療の高度化等に伴い必要とされるものであり、需要は拡大するとの中長期的な見方に変更はありません。第2期においては、上記方針に基づいて各種課題に対処し、2025長期ビジョン目標の実現に鋭意取り組んでまいります。

3-3. 主要事業課題

電線・ケーブルセグメント事業

【利益追求事業】

通信電線事業：高マージン製品の増販、コスト競争力強化

機器用電線事業（国内）：顧客ニーズに沿った製品・サービスの提供、成長期待市場への展開

【中長期育成事業】

機器用電線事業（海外）：販売チャネルの多層化、製品の対象市場の拡大、生産基盤拡充

電子材料セグメント事業

【利益追求事業】

機能性フィルム事業：シェアを維持しつつ収益性確保する効率生産体制追求、周辺の新分野への展開

ファインワイヤ事業：メモリ向け銀線、車載向け銅線の拡販

【成長追求事業】

機能性ペースト事業：第1期開発製品群の早期量産・量販化、新製品の開発推進

その他セグメント事業

【利益追求事業】

センサー事業：顧客との連携深化による顧客ニーズに沿った製品・サービスの提供

環境分析事業：分析サービス拡充、コスト競争力強化

【成長追求事業】

医療機器部材事業：新規製品群の販売開始、事業化推進

参考資料

- (1)連結経営指標等**
- (2)セグメント別事業内容**
- (3)TOPICS**
 - ①5G対応製品群**
 - ②DXへの取り組み**
 - ③投融資の取り組み**
 - ④ESG・SDGsへの取り組み**

(1) 連結経営指標等

参考資料

	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020 (予想)
売上高 (億円)	511	550	525	491	552	580	582	558
営業利益 (億円)	46	53	44	42	50	41	38	32
経常利益 (億円)	48	54	45	43	52	40	39	32
当期利益 (億円)	33	33	29	33	36	29	27	23
純資産 (億円)	315	347	360	381	414	433	441	(*) 456
総資産 (億円)	421	446	446	471	514	523	550	(*) 556
自己資本比率 (%)	74.7	77.9	80.9	80.9	80.5	82.7	80.3	(*) 81.9
1株当たり 純資産額 (円)	494.06	545.50	565.85	617.52	670.19	701.16	714.43	(*) 737.95
1株当たり 当期純利益 (円)	52.22	52.52	46.28	52.79	59.52	47.37	44.36	37.23
株価収益率 (倍)	10.23	9.69	7.69	9.59	10.95	9.63	10.37	—
従業員数 (人)	707	719	757	795	852	906	936	1,000

(*)2020年9月末実績

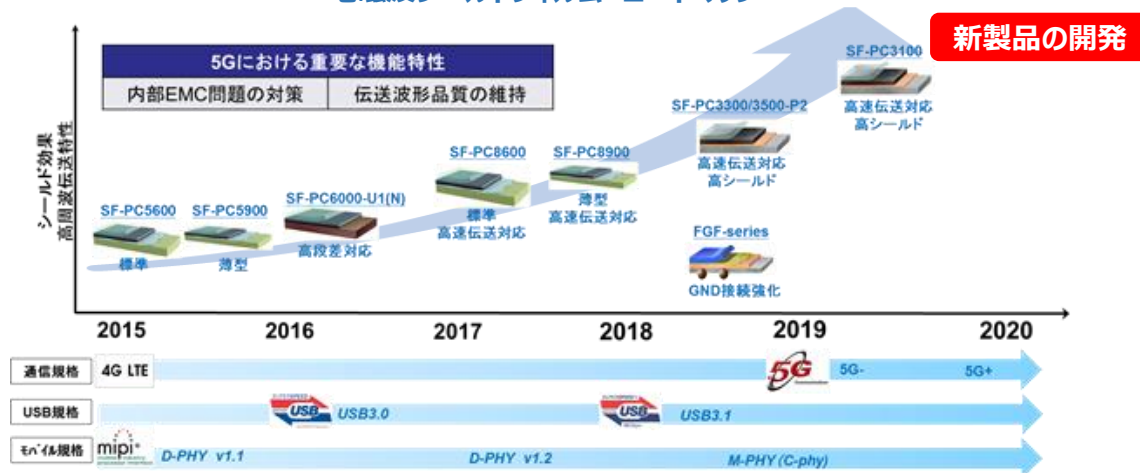
(2) セグメント別事業内容

参考資料

報告セグメント	主な事業内容
電線・ケーブル事業	通信電線事業 インフラ向け、一般産業用機械向け電線の製造・販売
	機器用电線事業 FA向け、精密産業用機械向け電線の製造・販売
電子材料事業	機能性フィルム事業 電子機器向け電磁波シールドフィルム等の製造・販売
	機能性ペースト事業 電子機器向け導電性ペースト等の製造・販売
	ファインワイヤ事業 電子部品配線用の極細電線の製造・販売
その他事業	センサー＆メディカル事業 (センサー事業) 漏水検知システム、侵入監視システム、入退出管理システム等の機器システム製品および 可視光合波デバイス、光ファイバカプラ等のフォトエレクトロニクス製品の製造・販売 (医療機器部材事業) 医療用のセンサー、チューブ、電線等の医療用機器・部品・素材の製造・販売
	環境分析事業 水質・大気・騒音・振動・臭気の測定分析、有害物質・土壌汚染・アスベストの調査分析

● 5G通信対応高周波シールドフィルム

電磁波シールドフィルム ロードマップ



2020年から全世界で導入予定である「5G通信」に向けた高機能シールドフィルムの上市を本格化



機能性フィルム事業
高周波対応シールドフィルム
SF-PC3100、3300、8600、8900他

● 導電性金属ペースト



機能性ペースト事業
高多層基板（合金化配合技術）
「メタライズペースト」
5G基地局向けおよびモバイル端末アンテナ向け



機能性ペースト事業
半導体PKG（スプレー塗布用配合技術）
「電磁波シールドペースト」
5Gモバイル端末向け

● 狭所配線



通信電線事業
600V難燃・可とう性
架橋ポリエチレンエコケーブル
「かるまげ」
5G基地局向け

組織変更

⇒2020年10月～ 本社部門にDX推進室を新たに設置

タツタ電線グループにおける事業の継続、デジタルトランスフォーメーション（DX）化に向けた事業運営方法の変革等を推進

リモート営業体制構築	非接触でのマーケティング体制推進（DX化） オンライン展示会等顧客対応 工場見学動画、商品PR動画作成 ネット販売の継続推進
社内DX化	業務改善（テレワーク環境整備、各種システム開発・改良等） オフィス・リモート混在のイノベーション環境の整備 全社横断型の技術情報等知財共有システム構築 AI・RPA等を活用し製造工程・事務作業自動化
働き方改革	モバイルPC,スマートフォン,モバイルディスプレイ等を全必要者に 配備しテレワーク促進／諸制度見直し 社内研修・式典・趣味講座等のオンライン開催

Applied Cavitation, Inc.の発行するConvertible Note引き受け

2020年7月、米国スタートアップ企業であるApplied Cavitation, Inc.（以下「ACI社」、本社：米国カリフォルニア州、CEO：Dana L.Hankey）の発行するConvertible Note（新株予約権付転換社債）を引き受けました。

ACI社は、キャビテーション（注）を用いた独自の分散技術・配合技術を有しており、当社の既存技術との融合により、新たな機能性ペースト等の製品展開が期待されています。今後、共同開発等の協業関係を構築していくことで、当社の電子材料事業における新たな要素技術の導入による事業基盤の強化、新製品・新市場の創出を目指します。

当社は、今後もさらなる成長の追求のため、スタートアップ企業への出資等による新分野探索を積極的に推進してまいります。

（参考情報）ACI社の概要

（注）キャビテーション：流れる液体の圧力を上下させることで、液体中で気泡の発生と消滅が短時間に起きる現象。この際に生じる衝撃波により液体中の凝集した粒子を分散することができます。

会社名	Applied Cavitation, Inc.
所在地	米国カリフォルニア州
代表者	Dana L. Hankey
ターゲット市場	フレキシブル・ストレッチャブル・エレクトロニクス 高性能パッケージング 宇宙・航空関連
設立年	2013年

ESG（環境・社会・ガバナンス）への取り組み

当社のESG活動は、「経営理念」「企業行動規範」「品質環境方針」に基づき、ステイクホルダーの期待に応えつつ社会の持続的かつ安定的な発展への貢献を目指すとともに企業価値の向上を目指したCSR活動をベースとしております。

CSR活動では、ESGに合わせ「環境」「社会」「ガバナンス」の各分野において社会の課題を踏まえた重要テーマを設定し、具体的な取組みを推進しております。（次スライド参照）

【経営理念】

タツタ電線グループは、

- ① 電線・ケーブル事業及び電子材料事業をコア事業とし、次代を担う事業の開発にも継続的かつ積極的に取り組み、活力・スピード感に溢れ、公正かつ透明性の高い連結経営を推進することにより、持続的に成長し、中長期的な企業価値を向上させるとともに、
- ② 地球環境問題に配慮しつつ、顧客ニーズにマッチした特長ある商品・サービスを提供することにより、持続的な社会の発展に貢献する。

【企業行動規範】

タツタ電線グループは、

- 1 創意工夫を凝らし、不屈の精神をもって社会・顧客の求める技術・製品を開発し、有用で安全な優れた製品・サービスを提供します。
- 2 地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであり、経営の基本であることを認識し、事業活動のあらゆる面において環境と人との調和を目指します。
- 3 従業員の人格・個性を尊重し、安全で働きやすい多様性に富んだ職場環境を確保します。
- 4 株主、取引先、地域社会等の社外における関係者との間で、健全で良好な関係を築きます。
- 5 国内外の法令及び社内規程を遵守し、社会規範や倫理に則って公正な企業活動を行います。
- 6 企業活動に関する情報を適切かつ公正に開示して、経営の透明性を高めます。

【品質・環境方針】

- 1 経営理念を達成するために企業行動規範に則り、事業プロセスの改善、製品およびサービスの向上、環境保全の推進に対して継続的かつ適切に取り組みます。
- 2 ISO規格要求事項に基づいた品質・環境マネジメントシステムを構築、運用することで、適用される法令や顧客要求事項を守ります。
- 3 当社は、取り組む必要のあるリスクを抽出し、それらに対応することで、品質向上、汚染の予防、環境保護に取り組みます。
- 4 品質・環境マネジメントシステムを維持し、そのパフォーマンスを向上させるために、PDCAのサイクルにより継続的改善を進めます。

(3) TOPICS④ESG・SDGsへの取り組み

参考資料

	CSR重要テーマ	社会の課題	具体的な取組み項目	関連するSDGs
環境	●環境負荷の低減 ●循環型社会の形成 ●低炭素社会の形成	●エネルギー ●資源循環 ●気候変動 ●生物多様性	●製品・サービスの環境負荷低減 ●リサイクルの推進 ●省エネルギーの推進 ●地球温暖化防止＝CO2排出量削減	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 8 働きがいも 経済成長も 9 産業と技術革新の 基盤をつくろう 11 住み続けられる まちづくりを 12 つくる責任 つかう責任 13 気候変動に 具体的な対策を 15 陸の豊かさも 守ろう
社会	●労働安全衛生の確保 ●製品品質の保証 ●地域社会との共存共栄 ●働きがいのある職場 ●人材育成	●飢餓・貧困 ●健康・福祉 ●教育 ●ジェンダー ●平和と公正	●安全衛生諸施策の推進 ●品質保証体制の強化 ●ダイバーシティの推進 ●良好なコミュニケーションの維持 ●スポーツを通じた地域貢献 ●働き方改革の推進 ●持続的成長・発展を担う人材の育成	3 すべての人に 健康と福祉を 4 質の高い教育を みんなに 5 ジェンダー平等を 実現しよう 8 働きがいも 経済成長も 9 産業と技術革新の 基盤をつくろう 10 人や国の不平等 をなくそう 11 住み続けられる まちづくりを 12 つくる責任 つかう責任
ガバナンス	●コーポレート・ガバナンスの強化 ●コンプライアンスの徹底	●公正な企業活動の実施 ●不祥事による企業価値 棄損の防止 ●企業からの適時、適切 な情報の提供	●コンプライアンス教育・研修の強化 ●内部通報制度の活用	10 人や国の不平等 をなくそう 16 平和と公正を すべての人に

●エコ難燃・可とう性架橋ポリエチレン絶縁電線 110℃耐熱 <EM-TLFC110>（通信電線事業）



EM-TLFC110は、リサイクル性の高い被覆材を使用した柔軟性のある電線です。耐熱性に優れており、IV・KIVと比較して電線サイズが小さくなり省資源化が図れます。

●FA・ロボット用ケーブル 細径化高力ケーブル（機器用電線事業）



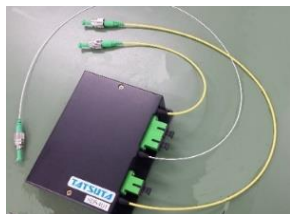
省スペース配線に対応した高力ケーブルです。使用されるロボットなどの軽量・小型化や省スペース化に寄与するとともに高力ケーブルの特徴である長寿命の実現によって省資源に寄与します。

●非導電性ペースト AE1125HD・DS<プリント配線板用途>（機能性ペースト事業）



高耐熱・高熱導電性能を実現したプリント配線板用途の非導電ペーストです。環境に配慮したハロゲンフリー製品であり、RoHS規制に適合する本製品は、2018年にUL規格(V-0)に認証されました。

●眼科OCT（光干渉断層計）向け部材（センサー事業）



高齢化の進行に伴い、高齢者に特徴的にみられる眼疾患の患者が増加し、眼科医向けの眼球内断層撮影機器であるOCTの需要がグローバルに高まってきております。当社のOCT向け部材は、多様な仕様に対応し、国内外の主要OCTメーカーに採用されております。

●ダイオキシン類分析（環境分析事業）



ダイオキシン類の分析には、極微量分析に対応した精度管理システムと高い技術力が要求されます。最新の装置を揃えて能力向上を図り、最短納期3日での分析を実現しています。

●PCB分析（環境分析事業）



トランス、絶縁油、感圧紙や塗膜中などの微量PCB分析のほか、水質、大気および土壌中のPCB、ウエスや器具、容器といったPCB汚染廃棄物の分析にも対応しています。

●2019年度の環境目標と実績

*CSR報告書2020での紹介内容

2019年度は、環境目標に対して具体的な目標を設定し環境保全活動を推進してきました。その結果を下表に示します。
新年度も引き続き改善に努め、目標達成に向けて積極的に保全活動を推進していきます。

※評価記号（○：達成 △：取り組み中 ×：未達成）

目的	目標	実績	評価
製品・サービスの 環境負荷低減	環境配慮型製品の開発 ◇ノンハロゲン化 ◇RoHS指令対応 など	商品化	○
リサイクルの推進	ゼロエミッション率1%未満 (銅・アルミを含む)	0.60%	○
省エネルギーの推進	エネルギー使用原単位あたりの削減 前年度比：1%以上削減	5.9%減少（注1） （参考）総エネルギー使用量2.1%増加	○
地球温暖化防止 【CO ₂ 排出量削減】	本社・大阪工場 削減計画期間2018-2020年度 2017年度を基準に、最終年度削減率を評価 【削減目標】原単位で3.2%以上削減（大阪府提出）	原単位あたり（注2） 基準年度比12.2%減少	△
	タツタテクニカルセンター・京都工場 削減計画期間2017-2019年度 前期間平均を基準に、最終年度削減率を評価 【削減目標】総量で3%以上削減（京都府提出）	評価対象となる排出量（注3） 基準年度比6.7%減少	○
	仙台工場 自主削減計画・前年度比 【削減目標】原単位で1%以上削減	原単位あたり 前年度比3.4%増加	×
	物流の環境負荷低減 ・輸送効率/積載効率の工場 ・モーダルシフトの推進継続（注4）	輸送ルートを選定など継続 東大阪⇒佐賀の鉄道貨物 東大阪⇒北海道の内航貨物船の利用継続 （CO ₂ 排出量の削減:230t/年）	○
環境監査	協力会社への環境調査	2社実施	○

（注1）エネルギー使用の原単位あたりでは、効率的な生産体制に努めた結果、削減目標を達成しました。

しかし、需要動向により工場稼働時間が増減する中、総使用量は増加しました。

（注2）計画中間年度のエネルギー原単位あたりの削減は、効率的な生産体制に努め目標以上の水準を維持しています。

（注3）計画最終年度の排出総量の削減は、効率的な生産に努め目標以上の水準を維持しています。

（注4）住電日立ケーブル（株）および大電（株）との共同運行です。

本資料に関するお問い合わせ先
タツタ電線株式会社
経営企画部

TEL:06-6721-3011 FAX:06-6726-2300

<http://www.tatsuta.co.jp/>